

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

萩市長 田中 文夫

市町村名 (市町村コード)	萩市 (35204)
地域名 (地域内農業集落名)	見島地区 (見島全域)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和 6年 6月12日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

当地域は、離島であり高齢化や耕作者の減少が著しく、農道や水路等の維持管理の負担が増加している。また、機械の価格高騰に伴い、農機具の更新が困難となっていることから離農が増加しており、特に山間部での不作付け地が増加している中、担い手により、圃場整備田の利用集積・集約が見込まれる。

(2) 地域における農業の将来の在り方

当地域は、国指定の天然記念物である見島ウシの生産と水稻、キュウリを中心に作付けしている。今後、農業生産条件の良い圃場及び作物の作型に適した圃場を担い手に集約し、飼料作物の増産を図り、見島ウシへの供給体制を確立する。
また、見島の特産であるキュウリ栽培については、生産量の維持を図る。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	241 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	232 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地を農業上の利用が行われる区域とし、作物の作付けが行われていない山地の中に点在する農地は保全・管理を行う区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
農業生産条件の良い圃場及び整備田については、農地中間管理機構を活用し、畜産農家及び担い手へ集約する。
(2)農地中間管理機構の活用方針
農用地の利用権設定等について、農地中間管理機構を活用する。
(3)基盤整備事業への取組方針
予定なし
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
新たな担い手が、見島ウシの飼養及び、契約栽培による小麦生産に取り組む予定としており、今後、農業委員をはじめとした、当地域の農業先駆者により担い手の育成に努める。 また、見島ウシ飼養農家の担い手に農地集積を行い、飼料作物の増産を目指す。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input checked="" type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

⑨飼料作物を作付けした水田等へ放牧を行う。
また、畜産堆肥を活用した資源循環の取組も行う。